

令和3年度 第2回学校運営協議会

今年度2回目の学校運営協議会を11月12日（金）に開催しました。

【話し合われたこと】



- 1 1学期から2学期前半にかけての学校の様子と今後の見通し
(校長より説明後、質疑応答)

委員：自学ノートの点検は毎月か。

校長：月ごとに学年を決めてやっている。一学年で年2～3回やれるようになっている。
毎日やりたいが教職員への負担が多くなるのも心配。

- 2 上半期運営協議会の振り返りと下半期の展望
(教頭より説明後、質疑応答)

委員長：今年からあいさつ運動を始めたが、児童生徒から元気をもらえた。今年も寒い冬になるが、もう少し運動を展開したい。ご協力をお願いしたい。

※参加者より協力について承認を得た。

- 3 防災訓練の振り返りと今後に向けて
(教頭より説明後、質疑応答)

委員長：想定外のことが起きている。アンケートをもとに改善をしていただきたい。

委員：すごく寒い日だったが、訓練に参加・協力いただき感謝したい。いろいろなことを学ぶことができよかったが、協力者は、消防団、防災士、婦人会の方だったのか。

校長：消防団、防災士、婦人会の方から協力を得た。防災士の方からは、HUGの説明をいただき、HUGを使った活動を行い、防災について考えるよい機会となった。遊びながら、災害時の避難について学んだ。生徒たちは一生懸命考えていた。

委員：市内で初めてだと思うが、全学校でも実施してほしい。

校長：子供たちが父親の姿を見ていて、消防活動後に拍手を送っていた。

委員：これだけの分量があるので、事前に送ってほしい。目を通す時間がほしい。事前に送ってもらえると意見が出やすくなるのでと思う。

訓練はいい取り組みだという声を多く聞いた。寒い中の開催でなく、暖かい夏とかにやれないかとも考える。あいさつ運動もいいことなので、みんなで協力していきたい。

委員長：学校では来年度もやりたいと言っているが、協議会としてもどのようにかかわっていくかお聞きしたいし、委員の皆さんの協力をお願いしたい。また、来年度についても考えていきたい。

委員：マ・メールで訓練の周知をしたのか。

校長：マ・メール、保護者配布文書、回覧板、地域・家庭を訪問しての周知を行った。

委員：実際の場面でやることも必要。様々な課題や、避難所の運営、児童生徒を帰した方がいいかどうかも見極められる。

校長：訓練を通して、生徒を帰すか帰さないかの判断をどうするかを考えた。来年度は避難所生活を実際に体験することも企画したい。

委員：校長の考えに共感している。アンケートを見たが、できれば各地区防災組織からの協力ももらってはどうか。弱者を避難所へ誘導する訓練もできるのではと思う。

委員：実際の災害では、学園の教職員が自分の子どもを迎えに行くということも想定される。そうなった時に、学校ではどうするのかも決めておく必要がある。

校長：消防団の協力により滞りなく行えたが、さまざまな想定を行い、どれだけの人員が必要かも今後分析していきたい。

委員：1か月前に地震があった。地区内に地震帯が通っているので山大の先生から来て講演をしてもらってもいいのでは。

委員：宿泊体験に希望者を募ることも大切。体調を崩す生徒もいるかもしれないので学校医の協力も得てほしい。

委員長：いろいろな課題が出てきた。事前の話し合いをしっかりと行ってきたが、課題を解決するためにも皆さんの協力をお願いしたい。

委員：その都度、課題について話し合う必要がある。

委員：運営協議会で来年もしたいとなれば、運営委員にどんな協力を依頼するのかをリストアップし提示してほしい。

校長：課題等を精査し、協議会に提示していきたい。

4 運営協議会委員より

委員：長引く不況の中で、「自粛だ、リモートワークだ。」と言っている。いろいろなことを控えなければならぬのが現状だ。ストレスがたまり、睡眠障害を訴える児童生徒も増えていることが心配。そのような児童生徒がいれば、改善を図る指導を学校にお願いしたい。本校にいるかはわからないが、報道を見ていると心配である。

校長：眠そうにしている児童生徒もいる。養教に依頼し実態を把握したい。

委員：できる範囲内での事業実施に、気苦労はあったと思うが、地域住民としては実施できてうれしい。コロナが落ち着き、今まで通りに戻ることに期待をしたい。また先生方の指導のおかげで、全国学力調査の数値が高いこともおたよりでみてうれしく思ってる。

委員：心の安定を大事にしてほしい。そのためにも、子どもたちを一生懸命支えることが大切。運営協議会委員が子供たちと触れ合う機会を多くし、存在意識を持ってもら

いたい。給食や行事の時にぜひ呼んでほしい。

委員：先生方同士も会食に行っているのか。先生方がストレスを抱えていないか心配。

校長：だいぶ緩和されているが、全員では会食に行っていない。そろそろかと思っている。

委員：市教委ではどうか。

課長：県教育委員会の方針を受け、会食ができるかどうか判断してもらっている。リスクを考えると実施の判断をこちらで行うのは難しい。会の持ち方についての判断は学校長でと考えている。

委員：「自助」「共助」「公助」という言葉について。大事なものは、近所をまとめ安全に避難所へ移動すること、自分の命は自分で守ることが大切。自主防災組織をもとに活動の展開が必要だが、市の自主防災組織の組織率が低く、災害が起きた時の組織がないと大変なことになる。全てやっておいた方が、いざというとき命を守ることにつながっていく。阪神淡路大震災以降、隣近所を区長が把握していることが大切であることが明らかになった。自分の区では自主防災組織を作っている。また、新庄市は災害がないところではあるが、自分の町内の自主防災組織をしっかりと立ち上げてほしい。「助ける命は助ける」を大事にしていきたい。

委員：コロナ禍の中で学校行事を校長はなかなかやれていないと思うが、これからも先ほど話題となった自学の取り組みを継続して取り組んでほしい。あいさつの声が小さく、あいさつ運動をしてもなかなか大きな声であいさつをする児童生徒は少ない。共励会の表彰を受けている先生がいると新聞で見た。スキルアップを図っている職員がいて素晴らしい。

協議：運営協議会は、市内の全小中学校での設置を目指しているが、現在は、萩野学園、明倫学園が設置している。どのような取り組みを行っているかを見せていただきイメージを持つことできた。自分の子どもが中学生の時にもPTAで話し合いを行っていたが、地域の方々からいろいろな意見をうかがえる場はとても貴重だなと感じた。これからも一堂に会して意見をもらえることはいいことだと改めて感じた。

協議：校長より、春に課題をお聞きしているが、現状がどうなのか具体的であり、生徒の姿が見える会議は素晴らしい。防災訓練を他校に紹介したいし、自分も見たが主体的に学習・生活に取り組む姿が印象的だった。重点を決めて、しっかりと取り組むことはさすが萩野だなと感じた。来年度に向けてどう取り組むかについても協議していることは素晴らしい。

5 その他

委員：運営協議会は市内の全校に設置すると言っているが、小さい学校では設置が可能だろうか。学校によってはPTAと同じメンバーにならないか心配である。

協議：今後、事業への承認をお願いしたい。小中の実態を踏まえて設置したい。組織とし

ては学校ごとに協議会を設置したい。

委員：組織力が大切。ある程度の数が必要。

